

読書のすゝめ

その25

H 28 2 / 3

本屋大賞ノミネート作品紹介

『全国書店員が選んだいちばん売りたい本①』



本屋大賞とは2004年（平成16年）に設立された、NPO法人 本屋大賞実行委員会が運営する文学賞です。一般の文学賞とは異なり、作家・文学者は選考に加わらず、「新刊を扱う書店（オンライン書店を含む）の書店員」の投票によってノミネート作品および受賞作が決定されます。過去の受賞作には『夜のピクニック』（恩田陸）、『告白』（湊かなえ）、『海賊とよばれた男』（百田尚樹）などがあり、現在では、直木賞や芥川賞を受賞した作品よりも、売上部数が伸びる賞として大きな注目を集めています。今回の10作品がノミネートされ、4月12日に大賞が発表されます。本校図書館にも所蔵されていますので、みなさんもぜひこれだと思う作品を選んでください。

『朝が来る』 辻村深月 文藝春秋

「子どもを、返してほしいんです」親子三人で穏やかに暮らす栗原家に、ある朝かかってきた一本の電話。電話口の女が口にした「片倉ひかり」は、確かに息子の産みの母の名だった……。子を産めなかった者、子を手放さなければならなかった者、両者の葛藤と人生を丹念に描いた、感動長篇。

『王とサーカス』 米澤穂信 東京創元社

2001年、新聞社を辞めたばかりの太刀洗万智は、知人の雑誌編集者から海外旅行特集の仕事を受け、事前取材のためネパールに向かった。現地知り合った少年にガイドを頼み、穏やかな時間を過ごそうとしていた矢先、王宮で国王をはじめとする王族殺害事件が勃発する。太刀洗はジャーナリストとして早速取材を開始したが、そんな彼女を嘲笑うかのように、彼女の前にはひとつの死体が転がり……。この男は、わたしのために殺されたのか？ あるいは——疑問と苦悩の果てに、太刀洗が辿り着いた痛切な真実とは？

『君の臍臓をたべたい』 住野よる 双葉社

偶然、僕が病院で拾った1冊の文庫本。タイトルは「共病文庫」。それはクラスメイトである山内桜良が綴っていた、秘密の日記帳だった。そこには、彼女の余命が臍臓の病気により、もういくばくもないと書かれていて――。

『教団X』 中村文則 集英社

絶対的な闇、圧倒的な光。「運命」に翻弄される4人の男女、物語は、いま極限まで加速する。米紙MS（ウォール・ストリート・ジャーナル）年間ベスト10小説、アメリカ・デイヴィッド・グーティス賞を日本人で初受賞、いま世界で注目を集める作家の、待望の最新作！

『世界の果てのこともたち』 中脇初枝 講談社

戦時中、高知県から親に連れられて満洲にやってきた珠子。言葉も通じない場所での新しい生活に馴染んでいく中、彼女は朝鮮人の美子と、恵まれた家庭で育った茉莉と出会う。お互いが何人なのかも知らなかった幼い三人は、あることをきっかけに友情で結ばれる。しかし終戦が訪れ、運命は三人を引きはなす。戦後の日本と中国で、三人は別々の人生を歩むことになった。戦時中の満洲で出会った、三人の物語。

